

日本金融ハイブリッド証券オープン(毎月分配型)円ヘッジありコース/円ヘッジなしコース (愛称: ジェイブリッド)

【投信協会商品分類】 追加型投信/海外/その他資産(ハイブリッド証券) 【設定日】 2013年8月29日 【決算日】 原則、毎月14日

運用実績

基準価額および純資産総額

基準価額	9,846円
純資産総額	91.79億円

※ 基準価額は、分配金控除後です。

期間別騰落率

	当ファンド
過去1ヵ月間	-0.19%
過去3ヵ月間	-0.70%
過去6ヵ月間	-0.35%
過去1年間	4.52%
過去3年間	6.92%
過去5年間	-

設定来 14.33%

※ ファンドの騰落率は、当ファンドに分配実績があった場合に、税引前の分配金を再投資したもとして計算しており、実際の騰落率とは異なります。

※ 設定来のファンド騰落率は、10,000円を基準として計算しております。

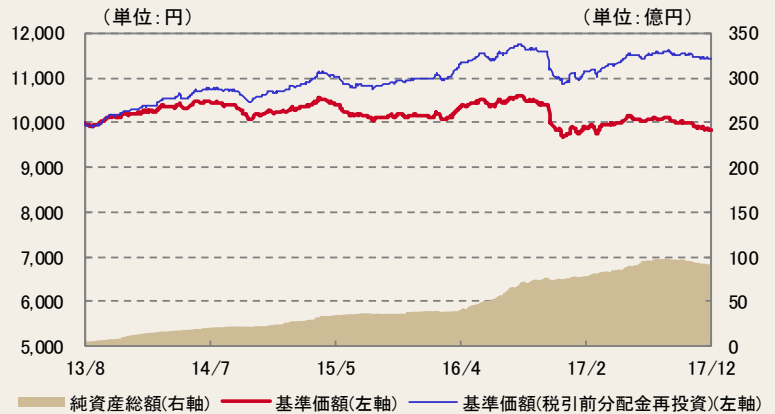
分配実績(直近5期分/1万口当たり、税引前)

2017年08月	30円
2017年09月	30円
2017年10月	30円
2017年11月	30円
2017年12月	30円
直近1年間累計	360円
設定来累計	1,525円

※ 収益分配金額は委託会社が決定します。分配を行わないこともあります。

基準価額・純資産の推移

2013/08/29~2017/12/29



- ※ 基準価額(税引前分配金再投資)は、分配実績があった場合に、税引前の分配金を決算日の基準価額で再投資したもとして計算しております(以下同じ)。
- ※ 基準価額及び基準価額(税引前分配金再投資)の計算において信託報酬(後掲「ファンドの費用」参照)は控除されております(以下同じ)。
- ※ 当ファンドは、ベンチマークを設定していません。
- ※ 分配実績がない場合、あるいは設定来累計の分配金額が少額の場合、基準価額及び基準価額(税引前分配金再投資)のグラフが重なって表示される場合があります。

構成比率

	純資産比
日本金融ハイブリッド証券マザーファンド	98.84%
コール・ローン等	1.16%

運用実績

基準価額および純資産総額

基準価額	10,710円
純資産総額	8.51億円

※ 基準価額は、分配金控除後です。

期間別騰落率

	当ファンド
過去1ヵ月間	0.82%
過去3ヵ月間	0.05%
過去6ヵ月間	1.52%
過去1年間	3.85%
過去3年間	5.27%
過去5年間	-

設定来 37.34%

※ ファンドの騰落率は、当ファンドに分配実績があった場合に、税引前の分配金を再投資したもとして計算しており、実際の騰落率とは異なります。

※ 設定来のファンド騰落率は、10,000円を基準として計算しております。

分配実績(直近5期分/1万口当たり、税引前)

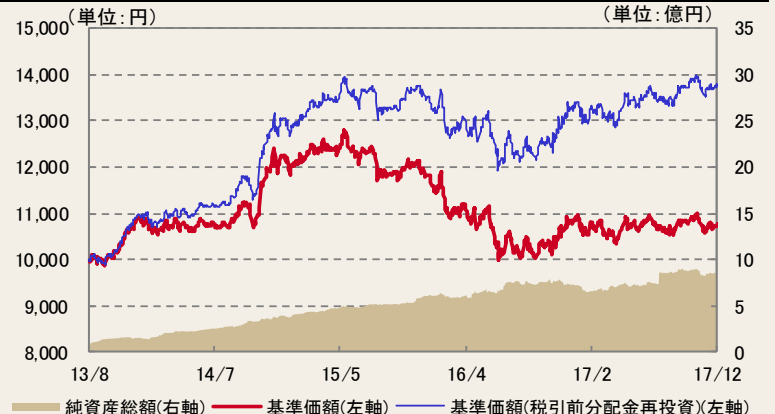
2017年08月	40円
2017年09月	40円
2017年10月	40円
2017年11月	40円
2017年12月	40円
直近1年間累計	480円
設定来累計	2,780円

※ 収益分配金額は委託会社が決定します。分配を行わないこともあります。

日本金融ハイブリッド証券オープン(毎月分配型)円ヘッジなしコース

基準価額・純資産の推移

2013/08/29~2017/12/29



- ※ 基準価額(税引前分配金再投資)は、分配実績があった場合に、税引前の分配金を決算日の基準価額で再投資したもとして計算しております(以下同じ)。
- ※ 基準価額及び基準価額(税引前分配金再投資)の計算において信託報酬(後掲「ファンドの費用」参照)は控除されております(以下同じ)。
- ※ 当ファンドは、ベンチマークを設定していません。
- ※ 分配実績がない場合、あるいは設定来累計の分配金額が少額の場合、基準価額及び基準価額(税引前分配金再投資)のグラフが重なって表示される場合があります。

構成比率

	純資産比
日本金融ハイブリッド証券マザーファンド	99.27%
コール・ローン等	0.73%

日本金融ハイブリッド証券オープン(毎月分配型)円ヘッジありコース/円ヘッジなしコース(愛称:ジェイブリッド)

構成比率(マザーファンド)

	純資産比
公社債	97.37%
期限付劣後債	69.87%
永久劣後債	27.50%
コール・ローン等	2.63%

ポートフォリオの状況(マザーファンド)

平均残存期間	7.6
修正デュレーション	6.3
平均終利	4.1%
平均直利	4.6%

- ※ コール・ローン等を除いて算出しております。
- ※ 「ポートフォリオの状況」については、初回コール償還されたと仮定して計算しています。コール償還とは、発行体が債券発行時に定めた条項に基づき、満期前に繰上げて償還できる権利のことです。ただし、コール償還の実施は発行体の任意で行われるため、必ずしも初回コールされるとはかぎりません。
- ※ 平均終利、平均直利は、ファンド組入銘柄等の利回りの加重平均等により算出したものであり、ファンド全体の期待利回りを示すものではありません。

格付別構成比率(マザーファンド)

	純資産比
A	89.4%
BBB	8.0%

- ※ 格付は、大手格付機関が付与する証券格付のうち、いずれか高い格付を表示しています。

組入銘柄一覧(マザーファンド)

銘柄名	種類	通貨	クーポン(%)	評価単価	償還日	純資産比
1 DAI-ICHI LIFE 4.0%	永久劣後債	アメリカ・ドル	4.000	97.91	2026/07/24	27.5%
2 MEIJI YASUDA LIF 5.2%	期限付劣後債	アメリカ・ドル	5.200	106.90	2025/10/20	26.0%
3 NIPPON LIFE INS 4.7%	期限付劣後債	アメリカ・ドル	4.700	103.09	2026/01/20	18.1%
4 MIZUHO FIN GROUP 4.6%	期限付劣後債	アメリカ・ドル	4.600	105.08	2024/03/27	8.0%
5 NIPPON LIFE INS 5.1%	期限付劣後債	アメリカ・ドル	5.100	105.48	2024/10/16	7.7%
6 SUMITOMO LIFE 6.5%	期限付劣後債	アメリカ・ドル	6.500	112.41	2023/09/20	6.4%
7 MITSUI SUMITOMO 7.0%	期限付劣後債	アメリカ・ドル	7.000	113.19	2022/03/15	1.9%
8 SUMITOMO MITSUI 4.436%	期限付劣後債	アメリカ・ドル	4.436	104.99	2024/04/02	1.8%

- ※ 繰上償還条項が付与されている銘柄については、繰上償還予定日を償還日に記載しています。

金融機関グループ別構成比率(マザーファンド)

	純資産比
第一生命	27.5%
明治安田生命	26.0%
日本生命	25.9%
みずほFG	8.0%
住友生命	6.4%
三井住友海上火災保険	1.9%
三井住友FG	1.8%

通貨別構成比率(マザーファンド)

通貨	純資産比
アメリカ・ドル	97.4%

<ご参考>

為替ヘッジコスト(円ヘッジありコース)

2.09%

- ※ 為替ヘッジコストは、米ドルと日本円の3ヶ月フォワード・スプレッドを年率換算したものであり、実際の為替ヘッジコストとは異なります。

## 日本金融ハイブリッド証券オープン(毎月分配型)円ヘッジありコース/円ヘッジなしコース(愛称:ジェイブリッド)

## ファンドマネージャーコメント

## ○投資環境

米国債市場において、12月の10年債利回りは、前月末とほぼ同水準となりました。

FOMC(米連邦公開市場委員会)は、13日に予想通り利上げを決定しましたが、利回りは月半ばまで方向感に欠ける相場展開でした。その後、トランプ政権による税制改革法案が議会で可決されると、景気を押し上げる期待から、利回りは上昇しました。しかし、月末近くに発表された経済指標が市場予想を下回ったことなどから利回りは低下し、月末の水準は、前月末とほぼ同水準となりました。

一方、7年以下の残存期間の短い米国債利回りは、利上げ継続を背景に小幅上昇(価格は下落)しました。

ドイツ債市場において、12月のドイツの債券利回りは、小幅に上昇(価格は下落)しました。

利回りは、月半ばまでやや低下基調で推移しました。しかし、その後は、ドイツ政府が2018年の国債発行計画で、超長期債の発行増額を発表したことや米国債券の利回り上昇などを受けて、利回りは上昇基調が継続し、月末の水準は、前月末比で小幅に上昇しました。

英国債市場において、12月の債券利回りは、低下(価格は上昇)しました。

利回りは、EU離脱交渉が難航するとの思惑や、BOE(イングランド銀行)が、EU離脱を巡る経済の先行き不透明感により、追加利上げに慎重な姿勢を示したことなどから、月半ばにかけて、低下基調が継続しました。その後、米独債券の利回り上昇などを受けて、利回りは上昇する局面もありましたが、月末の水準は、前月末比で低下しました。

邦銀ハイブリッド証券及び生保ハイブリッド証券については、対米国債スプレッドは縮小したものの、米国債の利回り上昇により、12月の債券利回りは小幅に上昇(価格は下落)しました。

## ○今後の見通し

今後もFRB(米連邦準備理事会)による利上げが想定されるものの、インフレが加速しない中では、上昇ペースは緩やかなものになると見込まれ、米国債利回りの上昇は限定的と予想します。一方、ハイブリッド証券は、国債や同発行体の普通社債に比べて相対的に利回りが高いことや日本の金融機関グループのファンダメンタルズが安定していることなどから、投資家の需要が今後も期待できるため、安定的に推移すると考えます。

## ○運用方針

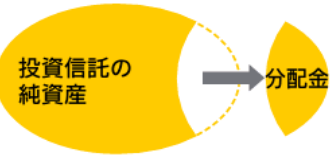
現在のポートフォリオを基本的に維持していく予定です。

日本金融ハイブリッド証券オープン(毎月分配型)円ヘッジありコース/円ヘッジなしコース (愛称: ジェイブリッド)

投資信託の収益分配金に関する留意事項

●分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

投資信託で分配金が支払われるイメージ

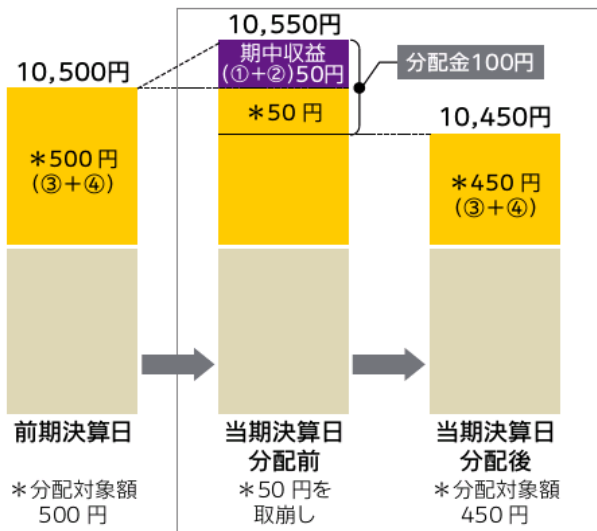


●分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。

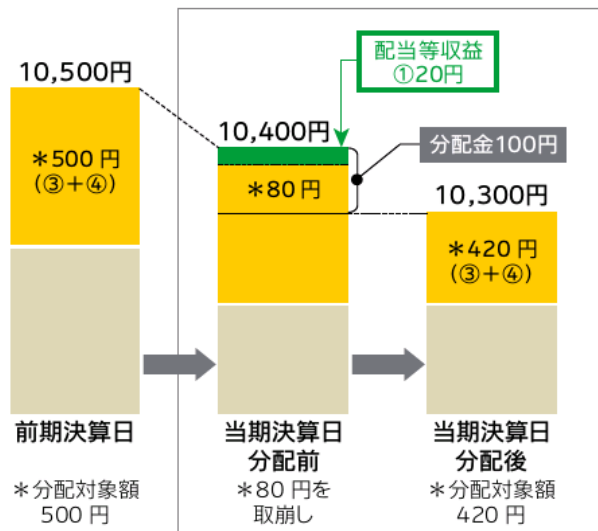
また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



前期決算日から基準価額が下落した場合



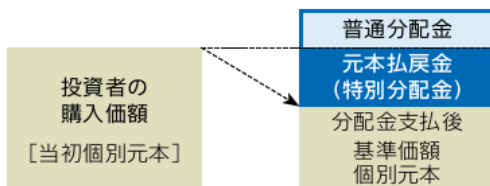
(注) 分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。分配対象額は、以下①～④です。

①経費控除後の配当等収益、②経費控除後の評価益を含む売買益、③分配準備積立金、④収益調整金

※上記はイメージです。実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご留意下さい。

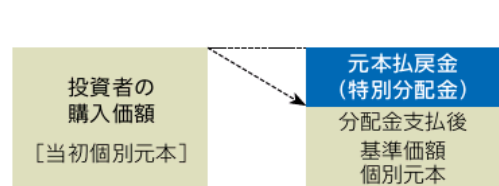
●投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金(特別分配金) 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

(注) 普通分配金に対する課税については、後掲の「●税金」をご参照ください。



## 日本金融ハイブリッド証券オープン(毎月分配型)円ヘッジありコース/円ヘッジなしコース(愛称:ジェイブリッド)

## | ファンドの特色

- 日本の金融機関グループが発行した外貨建て(米ドル建て、ユーロ建て、英ポンド建て、豪ドル建て等)のハイブリッド証券を実質的な主要投資対象とし、信託財産の成長を目指します。
- 「円ヘッジありコース」と「円ヘッジなしコース」があります。
  - 円ヘッジありコース  
外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジにより、為替変動リスクを低減する運用を行います。
  - 円ヘッジなしコース  
外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。
- 原則、毎月14日(休業日の場合は翌営業日)の決算時に収益の分配を行います。
  - 分配対象収益が少額の場合は、分配を行わないことがあります。

- 各ファンドは特化型運用を行います。  
特化型運用ファンドとは、一般社団法人投資信託協会規則に定められたものであり、支配的な銘柄<sup>※</sup>が存在するファンドをいいます。  
※支配的な銘柄とは、寄与度(投資対象候補銘柄の時価総額に占める一発行体あたりの時価総額の構成割合、またはベンチマークにおける一発行体あたりの構成割合。以下同じ。)が10%を超える、または超える可能性が高いものをいいます。
- 各ファンドの実質的な投資対象候補銘柄には、一発行体あたりの構成割合が10%を超える可能性の高い銘柄が存在します。そのため、各ファンドの運用にあたっては、支配的な銘柄を純資産総額の10%を超えて組入れる可能性があります。特定の銘柄への投資が集中することによって、その銘柄に経営破綻や経営・財務状況の悪化などが生じた場合には、大きな損失が発生することがあります。

## | 投資リスク①

## 《基準価額の変動要因》

ファンドの基準価額は、組入れられる有価証券等の値動き等による影響を受けますが、これらの運用による損益はすべて投資者の皆様に帰属いたします。したがって、投資者の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。また、投資信託は預貯金とは異なります。

ファンドの主なリスクは以下のとおりです。

※基準価額の変動要因は、以下に限定されるものではありません。

## ◆ハイブリッド証券(期限付劣後債、永久劣後債、優先出資証券等)への投資に伴う固有のリスク

## ●弁済順位について

ハイブリッド証券は、一般的に法的な債務弁済順位は株式に優先し、普通社債より劣後します。発行体の倒産や債務不履行があった場合、他の優先する債権が全額支払われない限り、元金金の支払いを受けることができません。また、発行体の倒産や国有化などの場合には、ハイブリッド証券の価値が大きく下落すること、または価値がなくなることもあり、ファンドの基準価額が大きく下落する場合があります。

## ●繰上償還について

ハイブリッド証券には、繰上償還条項が設定されているものもあります。発行体の著しい業績悪化、市況動向等により繰上償還が実施されない場合や、繰上償還されないと見込まれる場合には、ハイブリッド証券の価格が大きく下落する場合があります。

## ●利息・配当の支払いについて

ハイブリッド証券に利息・配当の支払い繰上条項がある場合、発行体の著しい業績悪化等により、利息または配当の支払いが繰り延べまたは停止される可能性があります。

## ●元本の削減等について

実質破綻時損失吸収条項が付されている場合、この条項のついた劣後債の発行体が発行的に経営破たんした時には、たとえ劣後事由(一般的に、破産法の適用・会社更生法の適用・民事再生法の適用等を指します。)が生じていなくても元本の削減等が行われます。

## ●制度変更等に関わるリスク

将来、ハイブリッド証券にかかる税制の変更や、当該証券市場にとって不利益な制度上の重大な変更等があった場合には、税制上・財務上のメリットがなくなるか、もしくは著しく低下する等の事由により、投資成果に悪影響を及ぼす可能性があります。

## ◆業種・銘柄集中投資のリスク

ファンドは、日本の金融機関グループが発行するハイブリッド証券に集中的に投資するため、個別の金融機関の業績・財務状況等に加え、金融業界全体に対する法令、規制等の変化による影響を受けます。したがって、幅広い業種に分散して投資するファンドと比べて基準価額の変動が大きくなる場合があります。各ファンドの投資対象には、寄与度が10%を超える又は超える可能性の高い支配的な銘柄が存在するため、当該支配的な銘柄に経営破綻や経営・財務状況の悪化などが生じた場合には、大きな損失が発生することがあります。

## ◆流動性リスク

国内外の政治・経済情勢の急変、天災地変、発行体の財務状態の悪化等により、有価証券等の取引量が減少することがあります。この場合、ファンドにとって最適な時期や価格で、有価証券等を売買できないことがあり、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、取引量の著しい減少や取引停止の場合には、有価証券等の売買ができなかったり、想定外に不利な価格での売買となり、ファンドの基準価額が大きく下落する場合があります。なお、ファンドが組入れるハイブリッド証券は、一般的に市場規模や取引量が小さく、流動性が低いと考えられます。

日本金融ハイブリッド証券オープン(毎月分配型)円ヘッジありコース/円ヘッジなしコース (愛称: ジェイブリッド)

投資リスク②

<p><b>◆価格変動リスク</b>                  公社債の価格は、国内外の政治・経済情勢、金融政策等の影響を受けて変動します。一般に、金利が上昇すると、公社債の価格は下落します。組入れている公社債の価格の下落は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。</p>
<p><b>◆信用リスク</b>                  有価証券の価格は、発行体の財務状態、経営、業績等の悪化及びそれらに関する外部評価の悪化等により下落することがあります。組入れている有価証券の価格の下落は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、発行体の倒産や債務不履行等の場合は、有価証券の価値がなくなることもあり、ファンドの基準価額が大きく下落する場合があります。また、ファンドが組入れるハイブリッド証券は、一般的に普通社債と比較して、低い格付が格付機関により付与されています。</p>
<p><b>◆為替変動リスク</b>                  円ヘッジありコース                  原則として、外貨建資産に対して、為替ヘッジを行います。全ての為替変動リスクを排除できるものではありません。また円金利よりも金利水準の高い通貨の為替ヘッジを行った場合、金利差に相当するヘッジコストが発生し、ファンドの基準価額が下落する要因となります。                  円ヘッジなしコース                  外貨建資産の価格は、当該外貨と日本円との間の為替レートの変動の影響を受けて変動します。為替レートは、各国の政治・経済情勢、外国為替市場の需給、金利変動その他の要因により、短期間に大幅に変動することがあります。当該外貨の為替レートが、円高になった場合は、ファンドの基準価額が下落する要因となります。</p>
<p><b>《その他の留意点》</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ クーリングオフ制度（金融商品取引法第37条の6）の適用はありません。</li> <li>◆ ファンドは、ハイブリッド証券を主要投資対象としますが、発行・流通市場の需給関係等によっては、当初設定時の組入れに時間がかかることや、組入れたハイブリッド証券の繰上償還により、ハイブリッド証券の組入比率が低い状態が続く場合があります。</li> <li>◆ マザーファンドに投資する別のベビーファンドの追加設定・解約等により、当該マザーファンドにおいて売買等が生じた場合等には、ファンドの基準価額が影響を受ける場合があります。</li> </ul>

詳細については、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

お申込みメモ①

購入単位	販売会社が定める単位 ※ 詳細につきましては、販売会社までお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
購入代金	販売会社が定める日までにお支払いください。
換金単位	販売会社が定める単位 ※詳細につきましては、販売会社までお問い合わせください。
換金価額	換金請求受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した額
換金代金	換金請求受付日から起算して、原則として5営業日目からお支払いします。 換金の申込金額が多額であると判断した場合、取引所における取引の停止等*、その他やむを得ない事情により、有価証券の売却や売却代金の入金が遅延したとき等は、換金代金の支払いを延期する場合があります。 ※外国為替取引の停止、取引市場における流動性が極端に低下した場合、取引市場の混乱、自然災害、テロ、大規模停電、システム障害等により基準価額の算出が困難となった場合をいいます。以下同じ。
申込不可日	ニューヨークまたはロンドンの銀行の休業日においては、お申込みを受付けません。
申込締切時間	原則として午後3時まで（販売会社により異なる場合がありますので、詳細につきましては販売会社までお問い合わせください。）
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金請求を制限する場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	委託会社は、購入・換金の申込総額が多額であると判断した場合、取引所における取引の停止等、その他やむを得ない事情があると判断したときは、購入・換金の受付を中止すること、及び既に受付けた当該申込みの受付を取り消すことができるものとします。
信託期間	平成35年6月14日まで（設定日 平成25年8月29日） ※ 委託会社は、信託約款の規定に基づき、信託期間を延長することができます。
繰上償還	各ファンドの受益権の残存口数が10億口を下回ることとなった場合、繰上償還することが受益者のため有利であると認めるとき、またはやむを得ない事情が発生したときは、繰上償還させることがあります。
決算日	原則、毎月14日（休業日の場合は翌営業日）

日本金融ハイブリッド証券オープン(毎月分配型)円ヘッジありコース/円ヘッジなしコース (愛称: ジェイブリッド)

お申込みメモ②

収益分配	毎決算時(年12回)、収益分配方針に基づいて収益の分配を行います。 ※ 分配金を受取る一般コースと、分配金を再投資する自動けいぞく投資コースがあります。販売会社によっては、どちらか一方のみのお取扱いとなる場合があります。各コースのお取扱いにつきましては、販売会社までお問い合わせください。
信託金の限度額	各ファンドについて500億円
公告	日本経済新聞に掲載します。 ※ 平成30年1月15日以降は、委託会社のホームページ ( <a href="http://www.sjnk-am.co.jp/">http://www.sjnk-am.co.jp/</a> ) に掲載します。
運用報告書	原則、毎年6月、12月の決算時及び償還時に、交付運用報告書を作成し、あらかじめ申し出いただいたご住所に販売会社を通じて交付します。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。配当控除、益金不算入制度の適用はありません。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
購入時手数料	購入価額に <b>2.16%(税抜2.0%)</b> を上限として販売会社が定めた手数料率を乗じた額です。 ※ 詳細につきましては、販売会社までお問い合わせください。	販売会社によるファンドの商品説明・投資環境の説明・事務処理等の対価
信託財産留保額	換金請求受付日の翌営業日の基準価額に <b>0.5%</b> を乗じた額です。	
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
運用管理費用 (信託報酬)	各ファンドの日々の純資産総額に対して <b>年率0.9072%(税抜0.84%)</b> を乗じた額です。 運用管理費用(信託報酬)は、毎日計上され、毎計算期末または信託終了のときに、ファンドから支払われます。	運用管理費用(信託報酬)＝運用期間中の基準価額×信託報酬率
	委託会社 年率0.40%(税抜)	ファンドの運用の対価
	販売会社 年率0.40%(税抜)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
その他の費用・手数料	受託会社 年率0.04%(税抜)	運用財産の管理、委託会社からの指図の発行等の対価
	以下の費用・手数料等が、ファンドから支払われます。 ● 監査費用 ファンドの日々の純資産総額に定率(年0.00432%(税抜0.0040%))を乗じた額とし、実際の費用額(年間27万円(税抜25万円))を上限とします。なお、上限額は変動する可能性があります。 ● その他の費用※ 売買委託手数料、外国における資産の保管等に要する費用、信託財産に関する租税等 ※ 「その他の費用」については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。	・ 監査費用： 監査法人に支払うファンド監査にかかる費用 ・ 売買委託手数料： 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 ・ 保管費用： 有価証券等の保管等のために、海外の銀行等に支払う費用

※ 当該手数料等の合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間、売買金額等に応じて異なりますので、表示することができません。

●税金

- 税金は表に記載の時期に適用されます。
- 以下の表は、個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。

時期	項目	税金
分配時	所得税及び地方税	配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%
換金(解約)時及び償還時	所得税及び地方税	譲渡所得として課税 換金(解約)時及び償還時の差益(譲渡益)に対して20.315%

※ 少額投資非課税制度「愛称:NISA(ニーサ)」をご利用の場合

毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得及び譲渡所得が一定期間非課税となります。ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

※ 法人の場合は上記とは異なります。

※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。



日本金融ハイブリッド証券オープン(毎月分配型)円ヘッジありコース/円ヘッジなしコース(愛称:ジェイブリッド)

●委託会社受賞歴



損保ジャパン日本興亜アセットマネジメントはR&Iファンド大賞2017の「投資信託/総合部門」において 外国債券総合「優秀賞」を受賞しました。

「R&Iファンド大賞」は、R&I等が信頼し得ると判断した過去のデータに基づく参考情報(ただし、その正確性及び完全性につきR&I等が保証するものではありません)の提供を目的としており、特定商品の購入、売却、保有を推奨、又は将来のパフォーマンスを保証するものではありません。当大賞は、信用格付業ではなく、金融商品取引業等に関する内閣府令第299条第1項第28号に規定されるその他業務(信用格付業以外の業務であり、かつ、関連業務以外の業務)です。当該業務に関しては、信用格付行為に不当な影響を及ぼさないための措置が法令上要請されています。当大賞に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利はR&I等に帰属しており、無断複製・転載等を禁じます。「投資信託/総合部門」の各カテゴリーは、受賞運用会社の該当ファンドの平均的な運用実績を評価したもので、受賞運用会社の全ての個別ファンドについて運用実績が優れていることを示すものではありません。

●委託会社・その他の関係法人

委託会社	ファンドの運用の指図を行います。 損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者(関東財務局長(金商)第351号) 加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会 ホームページ : <a href="http://www.sjnk-am.co.jp/">http://www.sjnk-am.co.jp/</a> 電話番号 : 0120-69-5432 ●クライアントサービス第二部
受託会社	ファンドの財産の保管及び管理を行います。 みずほ信託銀行株式会社 (再信託受託会社:資産管理サービス信託銀行株式会社)
販売会社	受益権の募集の取扱、販売、一部解約の実行の請求の受付、収益分配金の再投資ならびに収益分配金、償還金および一部解約金の支払等を行います。



**●販売会社（順不同、○は加入協会を表す）**

販売会社名	区分	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融 商品取引業協会	備考
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○	
PWM日本証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第50号	○				
カブドットコム証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第61号	○		○		
極東証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第65号	○			○	
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第67号	○	○	○		
東洋証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第121号	○				
第四証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第128号	○				
株式会社証券ジャパン	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第170号	○				
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○	
今村証券株式会社	金融商品取引業者	北陸財務局長(金商)第3号	○				
高木証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第20号	○				
西村証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第26号	○				
ひろぎん証券株式会社	金融商品取引業者	中国財務局長(金商)第20号	○				
香川証券株式会社	金融商品取引業者	四国財務局長(金商)第3号	○				
株式会社大東銀行 (円ヘッジありコースのみのお取扱いとなります)	登録金融機関	東北財務局長(登金)第17号	○				
株式会社常陽銀行 (円ヘッジなしコースのみのお取扱いとなります)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第45号	○		○		※3
株式会社大垣共立銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第3号	○		○		
株式会社鳥取銀行	登録金融機関	中国財務局長(登金)第3号	○				

**<備考欄の表示について>**

- ※1 記載の日付より新規お取扱いを開始します。
- ※2 記載の日付以降の新規お取扱いを行いません。
- ※3 新規のお取扱いを行っていません。

**<ご留意事項>**

- ・上記掲載の販売会社は、今後変更となる場合があります。
- ・上記掲載以外の販売会社において、お取扱いを行っている場合があります。
- ・詳細は販売会社または委託会社までお問い合わせください。

**当資料のご利用にあたっての注意事項**

- ◆ 当資料は、損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社により作成された販売用資料であり、法令に基づく開示書類ではありません。当ファンドの購入のお申込みの際には販売会社より投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡しいたしますので、必ずお受け取りの上、詳細は投資信託説明書（交付目論見書）をご確認ください。
- ◆ 当ファンドは、値動きのある証券に投資しますので、基準価額は大きく変動します。また、外貨建て資産に投資する場合には、為替リスクがあります。投資信託は、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって、元本が保証されているものではありません。
- ◆ 信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者の皆様には帰属します。投資に関する最終決定はご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。
- ◆ 投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- ◆ 登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の保護の対象ではありません。
- ◆ 当資料に記載されているグラフ・数値等は過去の実績を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。分配金に関しては、運用状況によっては、分配金額が変わる場合、或いは分配金が支払われない場合があります。
- ◆ ファンドマネージャーのコメント、方針、その他の予測数値等については、作成時点での投資判断を示したものであり、将来の市況環境の変動等により、当該運用方針やその他予測数値等が変更される場合があります。また、記載した内容は、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。
- ◆ 当資料に記載されている各数値は四捨五入して表示していることがありますので、誤差が生じている場合があります。
- ◆ 当資料に記載されている各事項につきましては、正確性を期しておりますが、その正確性を保証するものではありません。当資料に記載の当社の意見等は予告なく変更することがあります。